

第3節 館内奉仕

図書館が一定の座席を設け、数多くの図書を備えて読書の機会を一般の人々に提供することは今更言うまでもないが、もう一つ重要なことは、図書館が上品な洗練されたムードを持つということであろう。学生生徒の入館者数が座席数を上まわり、一般人の座席まで侵されるようでは、いつになっても学生生徒の試験勉強の場となって公共図書館としての存在の必然性がでてこない。

そこで、今年度は次のようなことを実施した。

- ① 全席を指定席にし（男子学生生徒席70、女子同70、一般人席50）、かりに学生生徒席が満員であっても、一般人はいつも利用できる状態にした。
- ② 図書の購入についても、利用傾向を見て備えるということから一歩先んじて、利用者の意向を把握するためのアンケートをとった。

1 利用状況

(1) 利用者

利用者総数（表5）は110,744人と38年度の124,613人から見ると、約13,700人少ないが、これは指定席の実施によって、従来無制限であった学生生徒が、或る程度制限された結果であり、一般人の利用者数の変動は見られない。即ち38年度と比較すると、

38年利用者総数 124,613人(学生97,651—一般26,862)
39 // 110,744人(// 85,324 // 25,420)

となり、学生生徒が約12,300人、一般人約1,400人減となっているが、総数における学生生徒と一般人の比率は76.4%対23.6%となってきており、38年度の78.3%対21.7%から見ると、僅か2%ではあるが一般人の比率が上むいてきている。今後は数の上でも一般人の増加を計るよう努力しなければならない。

職業別で38年度と相違を見ているのは、公務員と会社員の数が入れ替わっていること、農業が38年度の121人から215人、主婦が同じく38年から70人と大きくのびてきたことである。これは従来不読者層といわれる人々が、図書館利用に目を向けてきたことであり、今後これらの利用者の助長に大いに意を注がなければならない。

(2) 読書傾向

利用者数の減にともなって、利用図書冊数も59,090冊と38年度の64,304冊から約6,000冊少なくなってきたが、一般人の大半の利用である館外貸出冊数は13,385冊と、38年度の13,532冊と大差はなく、数字の上からだけの減少はさほど憂うことではないだろう。減少のもう一つの理由として考えられることは、図書購入費のこともあげられる。即ち、本年度の購入額は38年度とほぼ

同額であり、図書費の値上りから、購入される図書の冊数は前年度より少ないことになる。一般人の利用される図書というものは、分類別に見ても明らかなように、いわゆる文学的なものが多く、図書の即時性というか、やはりその時々で出版されるものが要求されるので、この要求を満たし得ねば、利用度の低下はまぬかれない。

分類別利用については表6の示す通りで、文学25.9%社会科学8.9%、歴史地誌5.7%の順に38年度と変りはなく、出版される図書の構成比とほぼ対応した数を示している。

その他本年度特に目立ったことは、新聞紙（特に継続して過年次分よりの）と特許資料の閲覧が多かったことである。前者は各官公庁、団体等の各「〇〇年史」等の出版のための資料としての閲覧であろうが、これらの資料の価値からして、今後の保存方法として是非マイクロ化しておかなければならないと考えられる。後者についても専門の特許権所有者ではなく、市井の人々が身近な事柄について考案したものを持ち来て調査を依頼されることが多かったが、これらの資料について職員にも専門的知識を修得させるようにしなければならない。

(3) 館外貸出登録者

表7の示すところにしたがってその職業別構成を見ると、38年度までと著しく異ったことは、一般人と学生の構成比がはじめて一般人52.4%、学生47.6%とその比が入れ替ったことである。数の上では学生数が減少したため当然であるかも知れないが、一般人についてだけ見ても38年度742人から757人と僅かに上むいてきている。これらの登録者の館外貸出利用度を見ると1,446人に対して13,384冊ということになり、年間1人平均9.2冊ということは決して高い数字ではなく、館外貸出が一般人の利用の今後の方向とすれば、まだまだこれが増加に努力しなければならない。

一般人の構成についてみると、総数757人中公務員、会社員等の知的事務従事者が452人と全体の60%を占め、農、商、主婦等はまだまだ低い。

次に男女別構成比について注目すべきことは、男715人、女731人と、38年度までの男女の位置が数の上ではじめて入れ替ったことである。

2 レファレンス・サービス

近代図書館の館内奉仕の特質はレファレンス・サービスにあるといわれているが、この機能を十分に発揮するには資料の充実が前提にならなければならない。

あらゆる種類の人から寄せられるあらゆる種類の質問を処理するのである。質問者があらゆる階層にわたっており、その年齢、職業、教養の程度、そして質問の動機がこれまた種々雑多である。

表8によって、処理された内容を分類別に見ると、図